

～三重に生まれ育つすべての子どもに途切れのない支援を～

THE 市町支援通信



あすなる学園市町支援グループでは、

「途切れのない支援システム」構築を協働支援いたします！！

三重県に住むすべての子どもの発達保障・子育て支援を目指し、あすなる学園は多くの市町と協働しながら、以下の取り組みを進めています。

- ① 保健・福祉・教育等部局一元化した発達総合支援室（機能）の設置
- ② 3歳児・5歳児「発達チェック」の施行、「個別の指導計画」の作成、あすなる学園の巡回指導による支援スキルの導入
- ③ 発達障がい支援システムアドバイザー研修（目利き・腕利き1年間あすなる学園研修）

システムアドバイザー認定式&記念講演会 ～2/23 アスト津～

2月23日、県内各地から200名以上の来場者を迎え「システムアドバイザー認定式&記念講演会」が津市にあるアストホールで開催されました。

会は2部構成で行われ、第1部では、平成15年から19年にかけて三重県立小児心療センターあすなる学園で研修を受けた7名が、安田副知事より認定証を手渡され激励の言葉を受けた後、津市の山口富生さんが認定者を代表し「身の引き締まる思いと責任の重さをひしひしと感じ、困り感を持つ子どもたちが途切れなく支援されるよう頑張ります。」と力強く挨拶されました。続いて、認定者と今年度研修者全員が一言ずつ抱負を述べた後、あすなる学園西田園長から今後の活躍に対するエールが贈られました。次に、こどもの発達総合支援室中村室長から「途切れのない支援システム構築」についての説明が始まると、場内には自分の住む市や町の取り組みの様子を真剣に聞き入る姿が見られました。第2部では、高山恵子さん(NPO法人えじそんくらぶ代表)が「困り感のある子の子育てと市町における途切れのない支援」について講演されました。「セルフエスティーム(自尊感情)」「受診前支援、親支援」「ナチュラルサポーター&途切れのない支援」等についてのお話がありました。講演の最後に「全国でも珍しい三重県の取り組みが日本のスタンダードになることを期待します。」との応援メッセージを頂きました。



<アンケートの中から>

- ・ 具体的にわかりやすくお話ししてもらってよくわかった。
- ・ 「たすけて」と言えることは、サインの読みとり・ナチュラルサポーターがたくさん増えると良いですね。
- ・ 首長に必要性を理解してもらうのに苦慮・ぜひ県や県教委からも行政のトップに説明する機会をつくってほしい。
- ・ アドバイザーについて、どこに誰がいるかをはっきりアナウンスしてもらいたい。
- ・ 地域間の連絡をしめらいたい。高校(特に私立高校)での対応は？中・高以降の支援はどのように続けられるか・・・
- ・ 保育所から小学校へ、小学校から中学校への連絡がなかなかとれずスムーズに行ける年と行けない年がある。
- ・ あすなる学園の市町支援を継続してほしい。

※ その他、認定者や研修者の方へのエールもいただきました。

「困り感のある子の子育てと市町における途切れのない支援」

NPO法人えじそんくらぶ代表 高山 恵子さん(臨床心理士)

虐待などが増加する中、昨年の保育指針の改定で、保育士の役割として「親支援」がはじめて明記されました。また特別支援教育も徐々に効果を上げ、能力にアンバランスがあっても高等教育や就労にすすむ子が多くなっています。しかし、学習中心のサポートを受けて卒業後、自己判断、自主的な行動、社会性が要求される就労先や大学でトラブルを起こすことがあります。

その学校在籍期間内での目標と将来の人生を視野に入れた支援の目標とでは、その内容や優先順位が変わってくるでしょう。「今、何を教えるべきか」「将来どんなスキルが必要とされるか」という将来への視点を視野に入れた移行計画が、一年一年の支援のつなぎとして重要なのです。

子育て支援による穏やかな親子関係、適切な支援による成功体験の多い学校生活は、次世代の社会の構成員の「人生の質」につながるでしょう。

子どもの特性を理解し、生活ストレスを減らし、適切な支援をするという、個々の子どもたちの成長やライフステージにあわせた三重県での支援に期待しています。

高山恵子さんプロフィール

臨床心理士、薬剤師

AD/HD等軽度発達障がいのある方のカウンセリング、教育を中心に指導者養成

厚生労働省：「発達障がい者施策検討会」の構成員

文部科学省：小・中学校におけるLD、AD/HD等の生徒への教育支援体制の整備のためのガイドライン策定協力者



途切れのない支援をめざして ～市町とともに～

三重県健康福祉部こども局長 太田 栄子

先日、2月23日、亀山市、津市、鈴鹿市、志摩市の7名の皆さんを、「みえ発達障がい支援システムアドバイザー」として認定をさせていただきました。

このアドバイザーは、市町から三重県立小児心療センターあすなる学園に派遣され、1年間にわたる発達障がいに関する専門研修を終えられた方々です。

発達障がいについては、社会の理解がまだ十分とはいえず、家族も本人も困っておられる状況が多く見られます。

三重県では、あすなる学園が中心となり、そうした状況を改善するため、「途切れのない支援体制」の構築に取り組んできました。この取り組みは、全国的にも先進的なものとして注目されているところです。

今後も、発達障がいのある子どもたちの育ちをしっかりと支援していくことのできる地域づくりをめざして、アドバイザーをはじめ市町の皆さんとともに取り組んでいかねばならないと思っています。

このため、三重県では、あすなる学園がその専門機能を活かして各市町への様々な支援を展開してまいりますので、是非活用いただき、“わがまち”の発達障がい児支援体制を構築、充実していただくことを期待いたします。

研修者のみなさん 今年度を振り返って

① 研修で得た事 ② これからの私(今後の抱負) ③ この一年をひとことで

名張市 西岡 俊充

- ① 専門的な広くて深い見方・考え方・やり方
- ② ねばり強く前向きに
- ③ 奮励努力



いなべ市 藤本 充代

- ① 支援する対象&時間の広がりスキルアップ
- ② 「雨ニモマケズ」の詩を念頭に東に西に奔走
- ③ 一期一会



鈴鹿市 岩間 和美

- ① 発達障がい児の早期発見と早期支援の大切さ
- ② どんなことにも、誠意を持って取り組む
- ③ 一生懸命



川越町 稲見 由美子

- ① 構造化された保育・授業は全ての子を救う
- ② 「北風と太陽」をいつも心に
- ③ 七転八起



いなべ市 藤川 里美

- ① 目利き腕利き+愛=親子の幸せ&現場力UP
- ② チームチャイサポで粘り強く地道に頑張ります
- ③ 笑涙学歩



津市 島田 まり子

- ① 途切れなく支援することの大切さと難しさ
- ② 子どもと保護者に寄り添う支援をしていく
- ③ 暗中模索



志摩市 川口 真由美

- ① 専門的スキルの習得と研修仲間との“絆”
- ② 現場把握、そしてシステム定着と療育開始!
- ③ 無我夢中



市町で核となる人材として活躍を期待しています。

先進市町視察見学会 ~2/9 志摩市訪問~

伊賀市・大台町・大紀町・南伊勢町・度会町・玉城町・鳥羽市の7市町(24名)の方々が、志摩市の「発達障がい支援ネットワーク」の視察見学のため庁舎を訪問しました。担当の澤田さん、谷さん、前田さんより「システム構築・システム運用・日常業務とのリンク・各部署との連携」について説明を受けた後に質疑応答の時間が設けられました。各市町の担当者から次々と「日々の業務内容」「システム導入によるメリット」「担当者の喜びと苦勞」「住民への浸透度」「担当者に必要なスキルや心構え」「現場への有効な入り方」「保護者との連携」等々、意見交流や情報交換という領域を超えた具体的な質問や意見が出され、各市町担当者の意気込みや使命感がひしひしと伝わるとともに志摩市をモデルに各市町のシステム構築が深まることを確信した数時間でした。

熊野・御浜・紀宝合同研修会 ~2/14 御浜町くろしおホール~

三重県立特別支援学校東紀州くろしお学園と3市町による研修会が実施されました。当日は熊野市・御浜町・紀宝町の保健師さん、保育士さん、幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校の先生、福祉行政・関係団体の職員さんたちが一同に介した研修会となりました。第1部(午前)は「こどもの困り感に即したうまいかわり、保育所・幼稚園・学校でのわかりやすい保育・教育、途切れなく支援することの大切さ」について中村室長の講演、第2部(午後)は6グループに分かれて事例検討し、異なる市・町・職種が共通課題に向かい話し合いながら「個別の指導計画」を作成するという実践研修をしました。

今年度も多くの市町で取り組んでいただいた研修スタイルですが、明日からの実践に役立つということで好評を博しています。



VOICES <途切れぬ支援システムの構築をされた市町からの生の声をお届けします>

～熱い支援に 心から感謝～

大声で泣いている子、教室から飛び出してしまう子がいる。包み込むように抱き、ゆっくり声をかけている担任がいる。「学校放送の音楽がいつもと違っていた」「練習の時なかった物が本番にあった」「周りの声が気になった」ということである。前にできていたことが今日はできない。その逆も。何が違うのか？不安を取り除くための手立ては？・・・不勉強を悔いながらあれこれ本を読む。しかし、目の前の困っている子どもをどうしてやることもできない。そんな中で、「発達障がい支援する仕組み」の存在を知り、すがる思いで電話をしました。子どもの様子を見に来て頂き、子どもの困り感や支援の仕方について納得のゆく助言を頂き、子どもの様子が変われば、その都度何時間でも対応をしてくれました。教育委員会の課長さんや指導主事先生も一生懸命になってくれました。関係機関（あすなろ学園）への橋渡し、関係者会議・評価会・研修会等の開催、保護者同席の個別指導計画作成に関わった助言と協力、日々の保護者支援、と本校は日常的にお世話になっています。子どもの個性や持ち味に合った自作教具の作り方も教えて頂き、楽しんで取り組む個別学習にフル活用しています。

私は今年度S市へ異動し、多くの出会いと発見がありました。子育て支援課の皆さんの熱い支援が、その出会いをより豊かにしてくれていることは言うまでもありません。心から感謝しています。

<S市小学校 校長より>

～安心感と心強さ～

1歳半健診の時「指さしはできないけど、ことばは出ているから様子を見ましょう」と言われた。「でも姉と比べると何かが違う？」「おかしい？」「何かあるのだろうか？」「何もないと思いたい」・・・

そんな中S市へ転入。自分が悩んだとき、「どこに聞いたらいいんだろう？」と、しんどかった。「市の何処かに伝えたら、みんな知ってくれている」と、思っていたがそうではなく「バラバラだと感じた」でも今なら、たとえ畑違いのことで自分が困ったり、悩んだ時「ここ（発達障がい児を支援する仕組み）に聞けばいいんだ」という安心感がある。

慣れていない介助の先生や担任の先生より、親の方が我が子の障がいのことについて詳しいときがあると思うが、そんな時先生と連携をとって一緒に考えてもらえると思うと心強い。

<S市 保護者より>

《インフォメーション》

3月1日(日) 東京にて研究発表

「3歳児発達チェックリストDVD制作について」

3月2日(月) 「平成20年度研修者報告会」

3月6日(金) 厚労省にて発表

「人材育成について」

3月17日(火) 北海道札幌市より視察

「発達障がい児・者の支援システム」構築の取り組み

2009年 3月 6日

<発行>三重県小児心療センター あすなろ学園 広報担当：こどもの発達総合支援室 市町支援グループ
〒514-0818 三重県津市城山1-12-3 TEL:059-234-8700 FAX:059-234-9361
MAIL: asunaro@pref.mie.jp URL: http://www.pref.mie.jp/ASUNARO/HP/